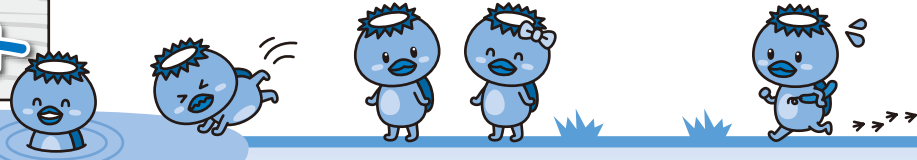


# クイズ & アンケート



クイズとアンケートに答えていただいた人の中から抽選でプレゼントします。なお、当選の発表は、発送をもって代えさせていただきます。

## 今月のプレゼントは『ステンレスボトル (ワードマーク)』2名様

※志木市は、埼玉西武ライオンズのフレンドリーシティです。



※イメージ

### 今月の広報紙クイズ

**Q** 志木市在住の菅原さん(横浜美術大学)がデザインしたロゴマークが採用された、政府が進める日本文化の魅力発信プログラムの名前は？

**beyond OOOOプログラム**

ヒント…2 ページ

〈先月号の答え:ソルト〉

### 応募方法

次の①～⑥を記入(必須)のうえ、ハガキ、お便り、メール、または申込フォームQRコードからご応募ください。

- ①クイズの○に入る言葉、②アンケートの回答、
- ③住所、④氏名、⑤年齢、⑥電話番号



申込フォーム  
QRコード

<宛先> 〒353-8501 志木市中宗岡1-1-1  
志木市役所秘書広報課「広報しき10月号」係  
☒ koho@city.shiki.lg.jp

<締切> 10月20日(金) ※消印有効

### アンケート

- Q1** 今月号で良かった内容や写真を教えてください。
- Q2** 取り上げて欲しい内容や企画を教えてください。
- Q3** 広報紙に関するご意見・ご感想をお聞かせください。



## 人生100年時代の到来

皆さんこんにちは。  
イギリスのロンドンビジネススクール、リンダ・グラットン教授の著書「LIFE SHIFT」が世界中で注目を浴びているをご存じでしょうか。

その著書の中で、世界の平均寿命は、1840年からずっと、10年に2～3歳のペースで延び続けていて、2007年に先進国で生まれた子どもたちの半数は100歳以上まで、日本の子どもたちに至っては、107歳まで生きることになるとグラットン教授は指摘しています。

我が国でも、健康で働く高齢者が増えていることから、先月政府は、新たに掲げた看板政策「人づくり革命」の具体策を議論するための有識者会議「人生100年時代構想会議」を設置し、グラットン教授もメンバーの一人として加わる中「すべての人に開かれた教育機会の確保や学び直し」「高等教育改革」「企業の人材採用の多元化と高齢者雇用」「高齢者保障が中心となっている社会保障の全世代型への改革」など、教育や雇用、社会保障など幅広い分野で長寿社会を見据えた制度

改革に向けて、議論がスタートしたところです。

平成29年9月時点での、埼玉県の100歳以上の人口は2,339人。10年前の平成19年の923人に比べて、2.5倍以上に増えています。もはや、県内63市町のうち、100歳以上の人がいない市町村はありません。

志木市においても、今年度新たに100歳を迎える方は11人。これで100歳を超える方は26人になりました。10年前の9人と比べても約3倍に増えている現状です。

これを見ても、グラットン教授の「日本の子どもたちは107歳まで生きる」という説は、現実味を帯びてきていると言えます。「四十、五十ははなたれ小僧。六十、七十は働き盛り。九十になって迎えに来たら、百まで待てと追い返せ」。この言葉は、幕末から大正初期に活躍した「日本資本主義の父」ともいわれる渋沢栄一翁の言葉です。渋沢栄一は、すでにこの頃から将来の日本の長寿化を予期していたのかもしれない。



▲敬老会の様子

新聞報道によれば、構想会議の会合後、グラットン教授は、「私たちはもっと健康的に老いていくことについて考えないといけない」と語ったとのこと。人生100年時代の到来！志木市もまちづくりの柱のひとつである「健康寿命日本一」を目指しながら、将来を見据え、発想の転換の必要性を皆さんと共有しながらまちづくりを進めていかななくてはなりません。